府立吹田支援学校

テーマ:「はかる」をテーマとした、小→中→高のつながり、生活に関する体験を交えた授業づくり

概要

生活に役立つ知識や技能を身に付けられる授業をめざして

吹田支援学校では、パッケージ研修支援を、シラバス作成と合わせて、すべての教科（領域）において同様に「学習の連続性」を意識した教育を確認する機会であると考え、全校研修としてすすめています。今年度は数学科が中心となって取り組み、「はかる」を共通のテーマとしました。

実施スケジュール

Research

- 7月上旬　担当者、教頭、担当指導主事で、今後の進め方について打ち合わせ

Vision

- 9月4日(水)　**全体会**
  テーマ「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について」

Plan

- 10月中旬～　指導主事による授業見学・指導案検討

Do

- 12月18日(水)　**研究授業・研究協議（中学部：数学）**
- 12月19日(木)　**研究授業・研究協議（中学部・高等部：数学）**

Check & Act

- 1月中旬　アンケート集約

全体会

9月4日（水）「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について」

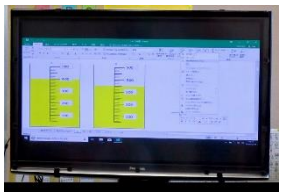
支援教育推進室指導主事より

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善についての講義を行いました。主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れたうえで、各授業者より「はかる」をテーマとしてどのような授業を行っていくのか発表が行われました。　（資料は抜粋）

研究授業（1）

学年・教科：　中学部１年　「数学」

単 元 名：　**「かさ」**



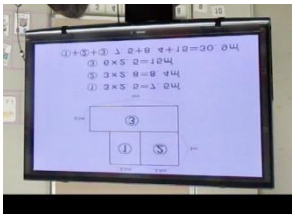
研究協議のポイント

水のかさの比較について、どのようにすれば単位を使うことのよさに気づくことができるのか、生徒の疑問を単位の学習に結び付ける授業展開の工夫について協議しました。

研究授業（2）

学年・教科：　中学部２年　「数学」

単 元 名：　**「色々な形の図形の面積や周りの長さを求めよう」**



研究協議のポイント

2つの部屋の面積比べをするという授業展開のうち、子どもたちの疑問を主体的な活動につなげ、そして達成感へと導く工夫について協議しました。

研究授業（3）

学年・教科：　中学部3年　「数学」

単 元 名：　**「多い量を選ぼう」**

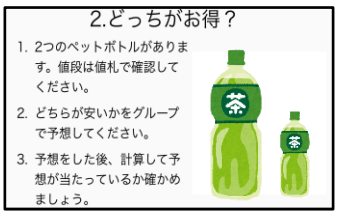
研究協議のポイント

視覚的にわかりやすい量の比較を行い、生徒が「多い」「少ない」の判断を授業のなかで実際にできるような体験的活動の工夫について協議しました。

研究授業（4）

学年・教科：　高等部2年　「数学」

単 元 名：　**「日常で見る量と商品の金額の関係について考えよう」**



研究協議のポイント

量と値段が異なる教材の比較から生まれる生徒の疑問を「単位量あたりの金額」を求めて比べることにつなげる授業展開の工夫について協議しました。

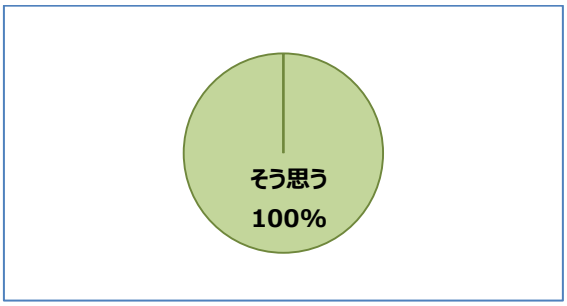
成果

「はかる」をテーマとして異なる学部の教員が連携をとりながら、授業づくりをすることで、同じ教科に携わる教員間の同僚性が高まりました。また、各学部の生徒の実態を踏まえながら、生活に関する体験を交えた授業づくりをすることで、学校全体として生活に関する体験を交えた授業づくりの大切さを再認識する機会となりました。

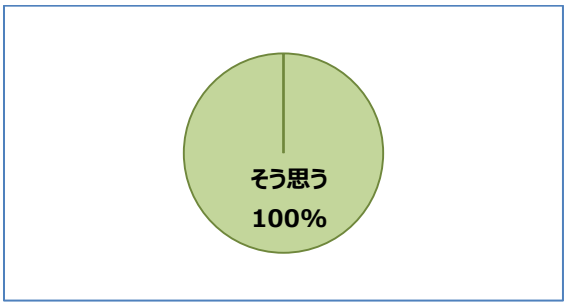
他教科の教員が全体会や研究授業に参加すること、職員会議での報告を通して、教科の目標に基づいた授業づくりについてさらなる工夫や改善をするきっかけとなりました。

アンケート結果

① 学校のニーズに応えていた



② 今回の成果を継続的に生かしていく



（感想より）

- 意識改革という点について、同じ教科の教員のつながりをつくるよい機会となった。学部を越えたつながりができたことで、学校としての教科に関する目標を確認、共有できた。